慶應義塾 医学部新聞
発行所
三四会医学部新聞編集室
〒160－8582
東京都新宿区信濃町35
電話（3353）1211 内線64996
会員については会費に購読料が含まれる
発行人　比企　能樹
毎月　1回20日発行

新執行部 発足

10月1日より医学部・病院とも新しい執行部がスタートした。2期目を迎える柔松誠医学部長、8月から病院運営を行っている武田純三病院長もまた、医学部の更なる発展を担う新執行部が発足した。医学部は医学部長補佐3名と大学院医学研究科委員長が1名、病院は副病院長3名での体制となる。

医学部長補佐

再生医学教授
福田　恵一（62回）

医学部長補佐

放射線科学教授
栗林　幸夫（52回）

大学院医学研究科委員長

生理学教授
岡野　栄之（62回）

医学部長

医化学教授
末松　誠（62回）

副病院長

皮膚科学教授
天谷　雅行（64回）

副病院長

小児科教授
高橋　孝雄（62回）

副病院長

血液内科教授
岡本真一郎（58回）

病院長

麻酔科学教授
武田　純三（52回）

医学部長補佐

病理学教授
坂元　亨宇（64回）

慶應義塾大学病院
●診療時間＝午前9時～午前11時
●電話番＝（3353）1211（大代表）
信濃町駅前・各種診療

医学部執行部

新病院構想に向けたがんの教育・研究・診療基盤の充実を目指して

医学部長　末松　誠（62回）

10月からの医学部新執行部の学部長補佐は、栗林幸夫教授（診療入事・教育入事担当）、福田恵一教授（研究・卒後医学教育担当）、坂元亨宇教授（教育・腫瘍医学教育研究基盤整備）の3名にお願いすることと致しました。今期の医学部・病院の共通の事業計画として、がんの教育・研究・診療基盤の充実、病院構想を進めるにあたり、この2年は医学部・病院の改革・改革で手腕を奮っていただきました。この場を借りて深謝申し上げます。

医学部創立100年を迎えるにあたり、この2年間前に前の池田康夫先生から大学院医学研究科委員長を引き継ぎ就任致しました。節目ということで、1期目を少し振り返ってみたいと思います。

1期目の早々に取り組みましたのは、池田先生が、世界に冠たる大学病院プログラムを目指して頑張ってゆきたいと思っておりますが、今後ともご指導の程を宜しくお願い申し上げます。

学部長補佐に就任して

学部長補佐　栗林　幸夫（52回）

前期に引き続いて学部長補佐を拝命しました。柔松学部長補佐として、医学部・病院の各学部長補佐と共に医学部執行部の一員として慶應義塾大学医学部の発展のために尽力する所存です。

私の担当は「診療・人事・キャンパス情報基盤整備」であります。この「情報基盤整備」は、2つの医療情報システムの整備、および将来の新病院建設をにらんだプロジェクトであり、医学部・病院の中枢・脳髄にあたる情報システムの基盤を整備することから信濃町キャンパス改革・刷新プロジェクトの中でD－タスクフォーク（新情報環境計画タスクフォース）として、将来の医療情報システムのあるべき姿を議論してきました。すなわち、慶應義塾が医学研究および教育における国際的学府として先進的役割を果たすとともに、医療の質の向上・安全性を確保しながら患者中心の高水準の医療サービスを提供することに積極的に貢献していくことを目指し、その核となるIT基盤として信濃町キャンパスに先端的な総合医療情報システムを構築することを目的としています。

具体的には、先進的な電子カルテを導入して医療情報の共有化を図り、医療クラスター等の診療機能の高度化を図り、KM編集長を務めさせていただきました。平成19年から学生・総合センター信濃町支部長、平成19年から教育委員会委員長、KM編集長を務めさせていただきました。

今回、末松医学部長のもとで、東京都からの産学官連携の研究設立の補助金（30億円）申請の取り組みを行ったが、残念ながら審査で2位になり、補助金獲得は出来ませんでした。

しかし、こうした経験を積ませていただいた部分が、大学病院が如何に情報に敏感であるべきかを、如何なる対応を取るべきかを常に問われる面もあり、大きなチャンスでもあると考えます。教授は、21世紀のCOEプロフェッショナル養成プラン等によりスタートした骨格を引き続き充実させ、がん医療を専門的な人的資源に関して、無給医の解消・奨学金等は教育委員会委員長、KM編集長を務めさせていただきました。

ただ、これに正面から立ち向かう強い精神力と胆力、思慮の冴えさに感服しました。私が大学病院の研究・教育・診療の連携を充実させる事、医学部と連携し研究医養成としてのMD-PhDコースを設置する事、修士課程の向上、さらに、塾全体から博士課程への進学率の向上、さらに、塾全体でグローバル30などのプログラムを活用して取り組んでいる大学院教育の国際化を、医学研究科で実践する事であります。

こうした施策をすべて遂行する為に、医学・研究・診療システムの構築と教育人事制度改革、財務担当、福田恵一教授（研究・卒後医学教育担当）、坂元亨宇教授（教育・腫瘍医学教育研究基盤整備）の3名にお願いすることと致しました。今期の医学部・病院の共通の事業計画として、がんの教育・研究・診療基盤の充実、病院構想を進めるにあたり、この2年は医学部・病院の改革・改革で手腕を奮っていただきました。この場を借りて深謝申し上げます。

医学部創立100年を迎えるにあたり、この2年間前に前の池田康夫先生から大学院医学研究科委員長を引き継ぎ就任致しました。節目ということで、1期目を少し振り返ってみたいと思います。

1期目の早々に取り組みましたのは、池田先生がそれまでの基礎を作ってこられました大学院医学研究科博士課程の改組であります。これは、大学院生理系・病理系・社会医学系・内科系・外科系の1・5専攻を医研究系の1専攻へと集約させ、新たに医療科学専攻を設置致しました。また、大学院博士課程では、これまで募集人員に対して入学者人数が定員割れをしておりましたが、平成21年度入学者数は、少なくとも過去10年間で初めて入学者が募集人員を上回りました。これには、新たに設置した医療科学専攻がなかなかの人気であったこと、臨床研究初期必修いりましたり。持て女性医師支援、公的競争的資金獲得による若手独立支援（戦略プロジェクト）や若手PhDプロジェクト）により大学院長の奨学金が充実したこと、二つのグローバルCOEプログラムによる大学院生に対する経済的サポートがあげられるかと思います。

また他機関との連携では、国内では理化学研究所、クイーンズランド大学研究所、カリフォルニア大学、ルンド大学、ハーバード大学、ケンブリッジ大学、ロンドン大学、ケンブリッジ大学、ハーバード大学、ルンド大学、カリフォルニア大学研究所、国外ではカロリンスカ研究所、ハーバード大学、ケンブリッジ大学、ルンド大学、ロンドン大学、ハーバード大学、ケンブリッジ大学、ルンド大学、カリフォルニア大学研究所、カロリンスカ